四季報 No.69

鴨東通信

おうとうつうしん

2008.4

てぃーたいむ
町衆文化の伝統と近代化
竹村民郎・鈴木貞美

特別寄稿
理科離れと科学技術史教育　下間頼一

史料探訪㉜
伝統の鵜飼観覧　稲川由利子

■人文科学の最前線■
学術創成研究費 目録学の構築と古典学の再生
内田澪子

■源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第三回〉■
〈源氏文化〉の諸相　伊井春樹

■私のノートから■
願文が語ること　工藤美和子

◉新刊案内◉
石山寺の信仰と歴史
増補 郷土教育運動の研究
孝子伝の研究(2刷)
善導大師と法然上人
日本古代の伝承と歴史
平安期の願文と仏教的世界観
明治維新史という冒険
王権と都市
近世御用絵師の史的研究
三高の見果てぬ夢
東寺宝物の成立過程の研究
阪神文化論
蓬莱山と扶桑樹

思文閣出版

町衆文化の伝統と近代化

竹村民郎（元大阪産業大学大学院教授、国際日本文化研究センター共同研究員）
鈴木貞美（国際日本文化研究センター教授）

■モダニズムとは何か■

鈴木：モダニズムというのは、近代主義とか現代主義と訳されていますが、実は意味が一定していないんです。どういう内容をそこに込めるか分野によってまったく意味が異なってくる。いわゆる社会史でいうモダニズムと、美術史でいうモダニズムとでは全然違うわけです。共同研究にはつきものですが、用語の理解の違いによって議論がすれ違ってしまう。そこで研究会では、「近代」とか「モダニズム」の概念について最初に論じたのですが、ちょっと長くなってしまったので本書では最後に置きました。普通、芸術関係でいうモダニズムは、ちょっと高級なものをさしていました。でも、モダニズムの多くの芸術家たちはショウウィンドウの飾りつけやポスターなど大衆の中に入っていこうとしていた。ところが、美術史の中にはそれを理解していない説がけっこうあります。まだそういう面では、分野によっても、またそれぞれの国の特徴もあるので、いろいろな説が混じり合って混乱しています。さらに、どこからモダニズムなのか、19世紀後期か、20世紀に入ってからか、1920年代に入ってからか、第一次世界大戦が終わってからか、など、いろいろな説が混在しているのが実情です。そういう意味で概念の整理を心がけました。

日本の場合は、1920年代の都市文化が本格的に論じられるようになったのは1980年代になってからです。その前に南博さんなど社会学の人たちがやっていましたが、それは基本的にはアメリカ文化の影響を受けた大衆文化を対象にしたものです。それら先行研究を批判的に検討しながら始まりました。それとは別に竹村先生は、大正期の日本の経済や余暇の問題など先駆的な研究をなさっておられたのですが、その流れが一緒になって、今回の共同研究ができたと考えていただければいいと思います。

竹村：さらに、「関西モダニズム」という領域では、概念整理どころか、まだ市民権が得られていなかったのです。私が『大正文化』（講談社現代新書、1980年）を出したころには手探りでやったような感じですね。関西に関しては定義すらない、関西にモダニズムと言えるのかどうか、という空気でした。まして宝塚少女歌劇などは学問の対象ではないという空気がありました。モダニズムには、ヨーロッパもあればアメリカもある、それをまず腑分けして研究しようというのが今回の発端だったと思います。これは我々だけではできません、広く各ジャンルがある。鈴木さんや劉建輝さんのおかげで、どっといろいろな分野から40～50人集まった。技術・建築・美術・文学……。

鈴木：もちろん阪神間モダニズムとか道頓堀とかの研究は1980年代に行われていたんですが、全体の中での関西、というふうには進んでいませんでした。それをなんとかしたかった。この本のタイトルは『関西モダニズム再考』ですけれども、関西を中心にして、日本全体のモダニズムを見直してみようと研究会を始めたわけです。

■関西モダニズムの特徴とは■

竹村：1990年代の「阪神間モダニズム」研究は、阪神間の美術館や博物館が共同で、芸術文化を中心とした1920年代の都市空間の問題を研究するというものでした。そこに大きな意味はあったのですが、どちらかというと美術・芸術関係の領域の考察が多かった。

鈴木：社会史と組み合わされてこなかった。インフラの問題まで全部含めた総合的な研究、しかも関西を中心にして、というのはなかった。

竹村：東京がまったく関西モダニズムの考察をしていないというわけではない。しかしそれは小林一三を中心とした、いわゆる「阪急モダニズム」というものだった。電車を走らせて、阪急百貨店を創って、沿線に郊外住宅地やレジャーランドを造って、全体として戦後日本の大衆社会の私鉄文化圏のベースをつくったというところに収斂していくわけです。たしかにそれは言えるかもしれませんが、最初に私鉄文化圏というものを形成したのは、実は阪神沿線なんですね。公衆衛生の問題から出発して、健康な沿線の郊外住宅地を作るという、これは大阪の関一の市政、都市計画などとも関連して、阪神沿線のほうが先行していたのです。もうひとつは、1905年、阪神電車の住吉駅ができ、そこに財界の人たちがどっとやって来るわけです。これは阪急沿線にはなかっ

たことで、この人たちが、新しい理想を掲げて日本型「田園都市」を創り出したわけです。やがてそれが芦屋、豊中、箕面、宝塚などに広がっていった。箕面・宝塚に電気鉄道を通したのは阪神の後ですからね。住吉で、大阪財界の超一流のブルジョア、船場の大商人たちが理想をもってやり始めた郊外のパラダイス作りを、小林一三が学んで発展させ、阪急沿線間に進めていく。それが東京の田園調布の開発に飛び火していった。成城学園もできる、あるいは、いろいろなミニチュアができてくる、というふうに発展していくわけです。私は「阪神間モダニズム」のベースになる土台を調べてみようと思って始めたのです。

鈴木：そういう意味でもう一度土台から見直す。京都は京都でまた別の近代化の仕方をしているし、阪神間のモダニズムは必ずしも阪急文化ではないですよ、といろいろな仕掛けをしたわけです。

■上方文化の伝統と近代■

竹村：さきほど関西財界の大物や船場の大商人が住吉に移住したと言いましたが、これはすごかったですね。武藤山治、住友友純、久原房之助…。彼らが金持ちで慈善をしたというような単純な問題ではない。近世の懐徳堂とか石門心学とか、いろいろな文化と伝統が背景にある。大阪町人は概ねメセナ活動をやっていた。平生釟三郎は甲南病院を作っただけではなくて、貧乏人からは金を取らず、金持ちだけから金を取った。今から思えば進んだ経営形態だった。そこには緒方洪庵の適塾の、種痘も含むオランダ経由のヨーロッパの最新医療を人々に開放したその精神が、平生の活動のベースになっています。そのへんの思想的なことについては鈴木さんからも指摘してください。

鈴木：関西は17世紀のうちから町衆の文化が花開いているんですね。世界的にこのようなところはないですよ。ロンドンだってパリだって。世界中でいちはやく町人が自分たちでつくった文化を上方はもっていた。その中で金儲け主義ではなくて、信用を大事にするという家訓が残っている。それが上方の商家です。特に船場は維新後もそれが壊れなかった。壊れてくるのは日露戦争後、20世紀に入ってからです。そこで関西でも成金が生まれてくる。しかし、住吉などには旧家の流れもまだ残っていた。簡単に言うと、東京は雇われ社長の資本主義ですが、そういう意味では関西の方がブルジョアなのですよ。資本ではなく、自分のお金を持っていたわけです。独自の趣味もあるし、その歴史があるのです。ヨーロッパのブルジョアと比べても彼らは王侯貴族の真似をしているだけですから、趣味と資本のあり方が違う。関西では伝統的なものと新しいものとを

鈴木貞美氏（左）と竹村民郎氏（右）

組み合わせた文化が育ってきたと思うのです。根こそぎ近代化しないという、そこが面白いところです。いまの日本人はそれを忘れてしまったのではないですか。伝統と新しいやり方を組み合わせるという知恵があったはずなのに、敗戦後それを忘れてしまって弊害が出た。活気にあふれ、先端的ではあるけれども、底が浅いというか、いつも流動しているだけという文化になってしまったのではないかという気がします。

竹村：それはとても大事なことで、関西は20世紀初頭には先進地域だったのですが、東京が一番というようなイメージが根強くあります。そのころはどういう時代かといえば、日露戦争で日本が勝って、欧米留学から帰ってきた日本人が経済や芸術などいろいろな方面で定着していく。ヨーロッパ文化がいい意味で定着した時期でもある。反面、戦争に勝ったために、日本主義みたいな考え方も出てくるし、全体として工業化と都市化が目覚ましく進んだ時代です。精神主義的な面も強くなり、鈴木大拙の禅の研究も出てくる、西田幾多郎の『善の研究』も刊行された。そのようなときに住吉のブルジョアたちをリードした平生さんや武藤さんたちは、単に近世の思想だけではなくて、ヨーロッパ思想を積極的に受容していたわけです。平生はロンドン支店監督の時、イギリスの田園都市とか消費組合とかを見て、みんなで共同してひとつの理想を実現していこうとする。20世紀初頭で新しい国家形成がされてくる。そういうものに対応できるような市民、いわゆる自立した市民を地域に根ざして創り出そうとしました。

鈴木：日露戦争後、地域主義とか郷土主義というものが、地方の時代をつくった。その流れの中で、それぞれの地方の良さを活かしていきましょうという動きは全体にありました。戦後の学者たちはそういう面に気づかず、古いと考えてしまった。関西にスポットライトを当てることで、日本の近代化というのは一筋縄ではなくて、いろいろな形があるんだということが見えてくればいい。各地方でいろいろな研究が盛んになっていますが、戦後的な価値観からの評価ではなく、もう一度考え直すきっかけになってくれればいいなと思います。（08.2.29 於：思文閣出版）

関西モダニズム再考

竹村民郎・鈴木貞美編

国際日本文化研究センター共同研究「日本のモダニズム―関西を中心にした学際的研究」の報告書。いわゆる「阪神間モダニズム」に京都を加え、また東京中心だった研究に対し、「関西モダニズム」の再評価を試みる。

【最新刊】

Ⅰ 「阪神間モダニズム」の社会的基調 ＊竹村民郎
琵琶湖疎水のモダニティ―初期電気事業における先見性 ＊金子 務
平生釟三郎日記に見る関西のモダニズム ＊松井朔子
前川國男と日本近代建築 ＊松隈 洋
大衆女性雑誌における競合的消費主義 ＊バーバラ・佐藤
Ⅱ 歌人前川佐美雄の場合 ＊高橋睦郎
梶井基次郎「檸檬」に見る大正末・モダン京都 ＊中河督裕
―『京都日出新聞』の紙面から―
大阪におけるカフェ文化と文藝運動 ＊増田周子
―明治末から大正初期を中心として―
関西「マヴォ」について―牧寿雄と「マヴォ」関西支部 ＊五十殿利治
築地小劇場と関西新劇運動 ＊依岡隆児
―ドイツ表現主義からの影響を中心に―
関西モダニズムと西洋体験 画家たちとその周辺 ＊稲賀繁美
―1900-1933年―
橋本関雪とアジア ＊西原大輔
阪神間モダニズムにおける大衆文化の位相 ＊竹村民郎
―宝塚少女歌劇と手塚治虫の漫画に関連して―
Ⅲ モダニズムと伝統、もしくは「近代の超克」とは何か ＊鈴木貞美

▶A5判・600頁／定価8,925円

ISBN 978-4-7842-1379-5

大手前大学比較文化研究叢書

阪神文化論

川本皓嗣・松村昌家編 【4月刊行】

歌枕にあらわれる芦屋の浜、歌人や作家に愛された風土、開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸。文学、歴史から阪神文化の神髄にせまる。

【内容】

歌枕の詩学――津の国・難波・芦屋 川本皓嗣
松瀬青々論 杉橋陽一
谷崎潤一郎と阪神間 そして三人の妻 辻 一郎
「記憶の場」としての『吉野葛』 岩谷幹子
桜と桜守――笹部新太郎を中心に 松原秀江
昭和初期の神戸における青年団運動について 尾﨑耕司
A・B・ミットフォードと神戸事件 松村昌家
――事件・ハラキリ・武士道

▶A5判・280頁／定価3,360円

ISBN978-4-7842-1398-6

～既刊～

Ⅰ 谷崎潤一郎と世紀末
▶A5判・212頁／定価2,940円

Ⅱ 視覚芸術の比較文化
▶A5判・240頁／定価2,940円

Ⅲ ヴィクトリア朝英国と東アジア
▶A5判・276頁／定価3,360円

Ⅳ 夏目漱石における東と西
▶A5判・208頁／定価2,940円

みやこの近代

丸山 宏・伊從 勉・高木博志 編 【最新刊】

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった――2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載されたものを再構成。さまざまな分野の具体的な主題をもとに、近現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。図版多数収録

【内容構成】まちのインフラ／まちのイメージと環境／まちの建築／美術と工芸／なりわいと政治／まつりと世相／京都帝国大学／みやこの海外

▶A5判・260頁／定価2,730円 ISBN978-4-7842-1378-8

雑誌『大大阪』CD-ROM

大阪都市協会企画発行 大正14年～昭和19年

雑誌『大大阪』の大正14年12月～昭和19年1月までの全巻約33,000ページの膨大な文章・図版・広告などのすべてをCD-ROM2枚に完全収録。題名・著者名・刊行年月・分野・キーワードの5検索が可能、さらに条件は3つまでの複数検索が可能。

※Windows専用

▶定価99,750円 【直販扱】

三高の見果てぬ夢

【5月刊行】

厳　平著　　中等・高等教育成立過程と折田彦市

本書は明治前期（1880～1890年代）における中等・高等教育の成立過程を、第三高等中学校およびその前身校の変遷に即して明らかにする。京都大学大学文書館『第三高等学校関係史料』を駆使して、当時の「中学校」の教育機能を考察し、前身校を含めて長く三高の校長職にあった折田彦市の役割に注目することで、高等中学校がいかなる理由で設けられたのかという、日本近代教育史研究の大きな欠落を埋める一書。

【内容】

近代日本教育史における中等・高等教育／折田彦市の米国経歴とその意義／模範中学校としての大阪中学校／第二の「大学」としての大学分校／モデルとしての第三高等中学校／折田彦市から見た近代日本の中等・高等教育の模索

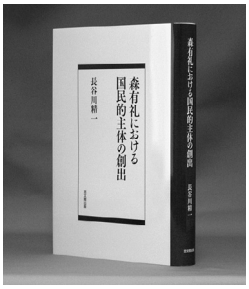
yan ping（げん・ぺい）…日本学術振興会外国人特別研究員

▶A5判・350頁／定価7,875円　　ISBN978-4-7842-1399-3

森有礼における国民的主体の創出

長谷川精一著

森有礼がその生涯において関わったさまざまな領域における思想や政策の分析から、彼が国民的主体の創出という課題にいかに取り組んだかを解明する。先行研究において十分に検討されてこなかった外国語の史料や文献をも利用し、さまざまな角度から検討を加えた画期的な一書。



【内容】

森有礼における国民的主体／森有礼の外交論／森有礼の「簡易英語」採用論／ 森有礼の歴史観／森有礼の道徳教育論―『倫理書』における「自他並立」の原理／森有礼の国家論／森有礼の天皇観

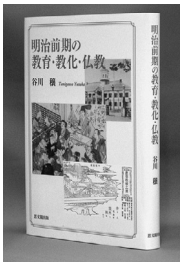
はせがわ・せいいち…相愛大学教授

▶A5判・468頁／定価9,450円　　ISBN978-4-7842-1367-2

明治前期の教育・教化・仏教

谷川穣著

近代日本における学校教育制度の定着過程で、宗教は教育といかなる関わりを持ったのか。その結果、学校教育の「非宗教」性がどのように醸成されたのか。明治前期を中心に、従来の日本近代史、仏教史、宗教史、教育史といった諸分野がとりこぼしてきた問題の重層性・複雑性を、教化・宗教（仏教）との関係から浮き彫りにする。



【内容】

教部省教化政策の展開と挫折／松本小教院事件／筑摩県における「教」の位相／明治10年代前半の僧侶の教員兼務論／僧侶養成学校と俗人教育／僧侶教員兼務論と俗人教育活動の盛衰

たにがわ・ゆたか…京都大学人文科学研究所助教

▶A5判・372頁／定価6,090円　　ISBN978-4-7842-1386-3

増補 郷土教育運動の研究

伊藤純郎著　　【5月刊行】

昭和恐慌が深刻化し、郷土の立て直しをはかる自力更生が叫ばれていた1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、運動を推進した文部省、文部省とは異論を唱える郷土教育連盟、実際にそれをおこなう地域社会の反応を通じて、実証的に解明する。長らく品切れだった旧版に付章を加えて再版。

【内容】

序　章　郷土教育運動研究の視点
第1章　郷土教育運動の背景
第2章　郷土教育運動
第3章　郷土教育連盟と郷土教育運動
第4章　柳田国男の郷土教育論
第5章　郷土教育運動の地域的展開
第6章　郷土教育運動の変質
終　章　郷土教育運動の歴史的意義
付　章　郷土教育運動の歴史的意義（二）

いとう・じゅんろう…筑波大学教授

▶A5判・500頁／定価10,290円

ISBN978-4-7842-1402-0

明治維新史という冒険

青山忠正著　　佛教大学鷹陵文化叢書18

かつて「明治維新」は国家の模範であり、「勤王の志士」は国民の規範だった。それらは国家がみずからの基盤を固めるために創りあげた虚像である。その本当の顔は、身近な所に潜んでいるかもしれない。京都の町並みや大阪のビルの陰にも――。

平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介し、「幕末」「明治維新」認識を対象化し、日本固有の「近代」というパラダイムを捉え直していく意欲作。

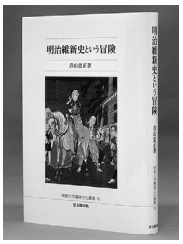
【内容】

Ⅰ 維新の足跡―フィールドノートより―
維新史を歩こう／京都の町並みのなかに／大阪のビルの陰に息づく ほか

Ⅱ 兵士と戦い
戊辰戦争と諸隊／馬関攘夷戦争／奇兵隊と四境戦争／ある奇兵隊士の処刑

Ⅲ 人と生きざま
吉田松陰／岩瀬忠震／伴林光平と「南山踏雲録」／龍馬は「暗殺」されたのか ほか

Ⅳ 変動する政局
岩国と薩摩／薩長武力挙兵の勇断／長州の密使／政権奉還と王政復古 ほか



最新刊

あおやま・ただまさ…佛教大学教授

▶四六判・332頁／定価2,520円

ISBN978-4-7842-1394-8

図２　候風地動儀（地震計）

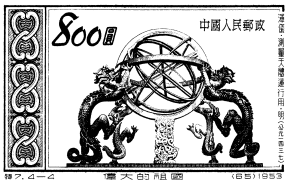


図３　渾議（天体儀）

と接し、中国社会に住んでみて、理系知識に接する機会が多いことに気付いた。例えば郵票（郵便切手、上掲・いずれも筆者蔵）。古代中国の科学技術はギリシヤ・ローマに比肩しうる高度なものであった。例えば円周率π（パイ）。五世紀の天文・数学者祖沖之は、3.1415926＜π＜3.1415927という精密な近似値を算出した。古代ギリシヤ最高の数学者アルキメデスは、π≒3.1415であった。祖沖之の肖像とπの数値入りの郵票が出回っている。紀元頃の最高の科学技術者張衡の地震計「候風地動儀」（図2）、等さまざまな郵票が出ており、身近に古代中国の高水準の科学技術が感じられる。

更に一言。日本の和算。江戸時代一七世紀の和算の俊英関孝和の弟子鎌田俊清は、πの小数点以下有効数字二五桁以上という驚嘆すべき精密値を算出した。これは当時の世界最精密値である。円に外接・内接する正2^{44}角形（一七兆余角形）の周長より計算した。今日ゆとり教育の名の下に、初等教育ではπ≒3と教えられていると聞く。日本独自の和算の優秀性が忘れられている。慨嘆の至りである。

文系と理系の谷を埋める最も良い視点は史的観照である。技術史・技術文化史・科学技術史などである。自動車は一八九二年、ドイツのベンツが発明した。先行技術として約四〇〇〇年前にヒッタイト人が馬で牽引する一軸二輪馬車チヤリオットを発明した。更に約五〇〇〇年前シュメール人は二軸四輪の車を発明したが曲行が難しかった。ヒッタイト人ははじめて鉄を作り、北方の騎馬遊牧民族の馬の制御技術と、シュメール人の車を鉄工具で総合してチヤリオットを作り、曲行が可能となった。一つの発明には必ず先行技術があり、その前に幾つかの基盤技術があり、これを支える自然的・歴史的・民族的・社会的基盤がある。技術史の大局的総合的把握により、自動車技術の由縁を知ることができる。

この度、思文閣出版より『日本産業技術史事典』が上梓された。時宜をえた好著で、日本の産業技術の生まれと進化を知る宝庫である。筆者は関西大学大学院機械工学専攻で「技術文化史特論」を担当し、院生が史的観照の眼を開くよう努力してきた。大切なのは動機付け。計数法・記数法、特に古代インドにおけるゼロの発見により、僅か一〇個の数字であらゆる数の表記が可能になった。二〇〇〇年の歴史は院生の関心を喚起した。また日本技術史教育学会は技術史教育の重要性を訴え続け、全国に活動を拡げようとしている。歴史は明日を測る確かな物差である。

日本技術史教育学会会長（関西大学名誉教授）

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会20周年
思文閣創業70周年記念

日本産業技術史学会編

編集委員：中岡哲郎・後藤邦夫・山口昌伴・三宅宏司・鈴木淳・沢井実・堀尾尚志・麓和善・田中一郎・高松亨・石村眞一・内田星美

◎明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する

◎「日本の近代」の理解において不可欠でありながら、従来必ずしも系統的・組織的に実施されてこなかった日本の産業技術史研究を23の大項目に分け、関連項目344の小項目としてとりあげて詳述

［大項目］

日本産業技術・維新から1980年代まで／道具（生活道具や工芸関連道具を中心に）／機械／素材（木材と土石）／素材（鉄）／人工の素材（化学）／産銅業／石炭産業／動力と動力システム／鉄道と船／航空機と自動車／情報・通信／生産技術／農業・林業・漁業／食品加工業／繊維と衣服／耐久消費財／建築とデザイン／環境技術／学協会と技術者集団／技術者教育／研究開発機関／1980年代の産業技術

▶B5判・550頁／定価12,600円　ISBN978-4-7842-1345-0

理科離れと科学技術史教育

下間頼一

若者の理科離れがいわれて久しい。筆者は関西大学工学部機械工学科に四四年間（専任三七年、非常勤七年）勤めた。機械工学科への新入生を見ると、約三分の二はSLが好きだとか、模型飛行機を作りたいとか、機械に興味と関心を持っているが、約三分の一はただ何となく機械工学科へ入ってしまったという感じ。目的意識の薄い新入生に、機械への志向を植え育てるのはなかなか難しい。機械に触れ、馴れ、親しむ機会をふんだんに提供し、睡っている知的好奇心を目覚めさせる。観察・実験・実習と体験的学習を重ねる。

この原因は何か。永年の疑問であった。原因は若い世代にではなく、実は大人社会の在り方にある。大学を見る社会の目は文系か理系かである。実業界では事務屋さんか技術屋さんである。大枠で峻別されることに真因がある。大学の実情を見るに、文系の先生方は専門分野の権威として蘊蓄（うんちく）を傾けられる。理系の先生方は専門領域のエキスパートとして、特に先端科学技術に熱を込められる。文系と理系を一体として捉え、大局的横断的視点より文明論的なお話を聴く事は稀である。

社会の実情もまた然りである。身近な新聞・テレビ等さまざまの情報は、文系情報・社会系情報・理系情報と分別され、これらを融合した総合的情報は少ない。例えば天気予報。気圧一〇〇六ヘクトパスカルとある。ところがヘクトパスカルの解説はどこにもない。昔の水銀柱七六〇ミリの方がまだ理解し易い。絶対単位系のヘクトパスカルの説明は難しいが、平易な解説が望まれる。例えば鉄道、広軌の新幹線と狭軌の在来線とある。広軌は国際標準ゲージ一四三五ミリ、狭軌は一〇六七ミリゲージとちょっと解説を付記して頂くと理解し易い。鉄道勾配一〇パーミルとあるが、パーミルの説明はない。周知の如く、パーセントは百分率、パーミルは千分率。一〇パーミルは、一〇〇〇メートル進むと一〇メートル高くなる上り勾配である。一言説明があると何でもないのに……。

小学生時代は知的好奇心が旺盛で、知識の吸収消化が早い。小学校時代の科学技術教育は最も大切である。模型を見せ、実物に触れ、体験する学習を望みたい。

中国の大学へ交換教授として暫く滞在する機会があった。学生・院生諸君

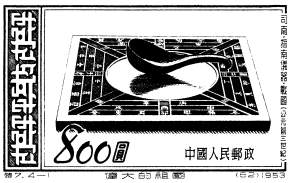


図1　司南の勺（磁石）

佐久間象山と科学技術

東 徹 著

「東洋道徳、西洋芸術」という言葉で時代をリードした佐久間象山。彼は本当に科学技術の「知識」を有していたのか。彼の「知識」と「実践」をめぐる問題について具体的に分析し、幕末における科学技術の受容と水準を解明する。

▶A5判・283頁／定価7,980円　ISBN4-7842-1101-2

絶対透明の探求

遠藤高璟著『写法新術』の研究

尾鍋智子 著

江戸後期の視覚変革がもたらした一つの結実といわれる『写法新術』。本書は、遠藤の加賀藩における知的交流とその思想を論じ、『写法新術』にみられる倫理観・写法の理論と独創性を明らかにする。

▶A5判・310頁／定価6,090円　ISBN4-7842-1294-9

歴史の中の病と医学

山田慶兒・栗山茂久 共編　【2刷】

日本の伝統医学の発展は、中国医学の受容により決定的に方向づけられた。しかし両者を比較すると微妙なズレ―重点の移動―が随所にうかがえる。こうしたズレが生まれた文化・社会的背景と歴史的変遷を考究する。

▶A5判・640頁／定価12,600円　ISBN4-7842-0938-7

東アジアの本草と博物学の世界

山田慶兒 編　【好評増刷・全2冊】

東の本草学と西の博物学は日本で遭遇する。物にそそがれる新しい眼の誕生、かぎりない多様性の発見。知的冒険の展開を、学問・産業・芸術の分野への影響も含め、多角的に考察した21篇。

▶(上)A5判・364頁／定価7,875円　ISBN4-7842-0883-6
▶(下)A5判・376頁／定価7,875円　ISBN4-7842-0885-2

史料探訪 32

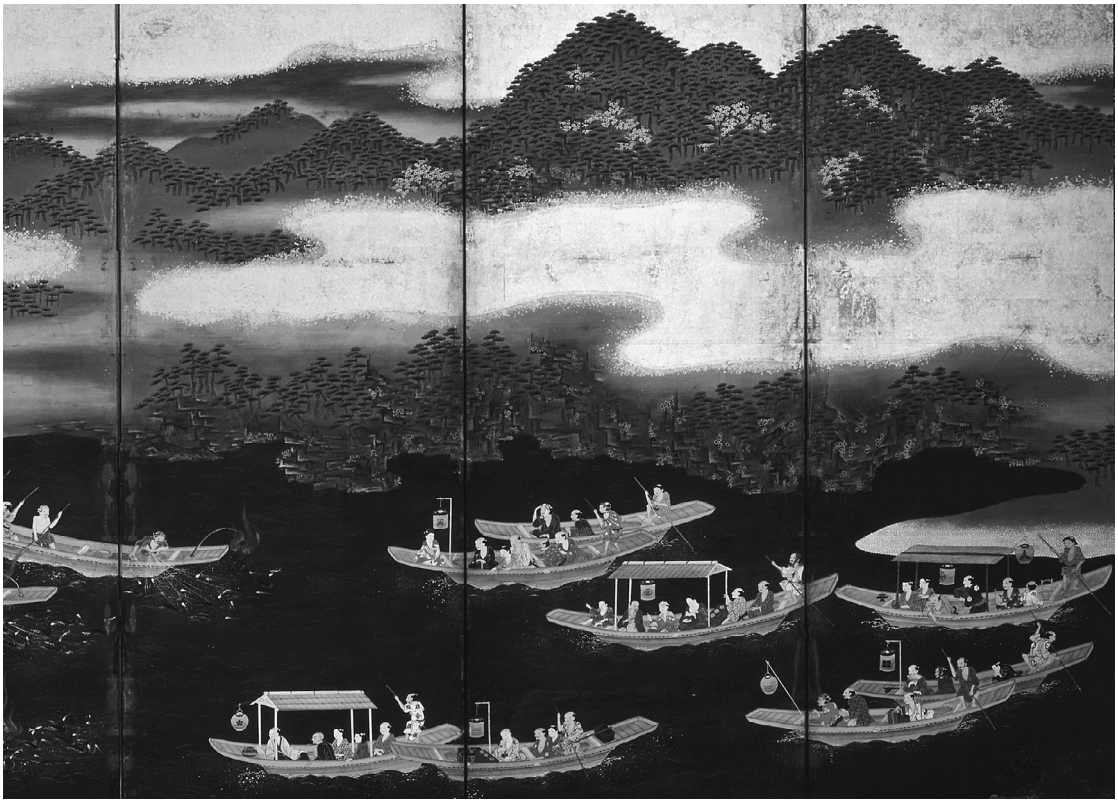
伝統の鵜飼観覧

岐阜市歴史博物館
稲川由利子

岐阜市がどんな所かご存知ない方でも、「鵜飼を行う長良川のある所」といえば、イメージしていただけるであろうか。鵜を遣って魚を獲る「鵜飼」は現在も全国10ヶ所以上で行われているが、長良川のそれは特によく知られたものだろう。漁の一種でありながら「見る（見せる）もの」という一面を古くから持っていたことは源氏物語などからも推測され、長良川においては室町時代に一条兼良が船を調達して鵜飼見物し、捕れた魚を篝火（かがりび）で焼いて食べたことが「ふぢ河の記」に記されている。「鵜飼漁」だけでなく「鵜飼観覧」にも歴史を持つ岐阜の、長良川からすぐ近くにある博物館として、岐阜市歴史博物館では広く鵜飼をとりあげた資料の収集に昭和60年の開館以前から努めてきており、そのなかの一つが今回紹介する「鵜飼遊楽図」である。

紙本着色、本紙縦160.8cm、横358.6cmの六曲一双屏風で、作者不明だが描かれた風俗などから17世紀末頃の長良川鵜飼をモデルに制作されたと考えられている。左右隻にわたって画面のおおむね上半分を川原と岸辺につきだした岩、金彩のすやり霞、山などの背景が占め、下半分に鵜飼舟や観覧船が浮かぶ川が描かれている。川原は左右隻連続しているように見えるが、右隻の山には桜、左隻には紅葉が見られ、春秋二つの季節を表現しているため、描かれた光景は同時のものではないことがわかる。鵜飼舟がそれぞれ6艘、観覧船は左隻に9艘、右隻に10艘描かれており、鵜飼舟には舳先（へさき）で10羽以上の鵜を操る鵜匠が1人と、船の中央付近から艫（とも）にかけて3～4人の船頭が乗っている。船頭や鵜飼舟の乗員の中には前髪の残る少年の姿が少なからず見られ、鵜飼舟12艘に7人、観覧船19艘のうちにも2人いる。現在では鵜匠と船頭の服装は基本的に紺色で統一されており、鵜匠が漁服・腰蓑姿で頭には紺色の手拭いを独特の形に巻いた「風折烏帽子（かざおりえぼし）」、船頭は法被（はっぴ）姿とそれぞれ揃えているが、作品中の鵜匠は着物の袖を首の後で結び、クルミハチマキに腰蓑姿と同じスタイルこそしているものの、着物の色・柄までは統一されていない。船頭にいたっては肌脱ぎした者、鉢巻きをする者など全くバラバラである。装束を揃えることは江戸時代後期以降、尾張藩主上覧などあらたまった折に徐々に整えられたのではないかと考えられており、見られる姿への意識はまだ低かったのだろう。

さて、この屏風には鵜飼舟よりも見物客を乗せた観覧船が多く描かれている。船の構造は鵜飼舟と基本的に同じ形であり、屋根付き船もあるが、船の大きさや客の人数にかかわらず、竿を手にした船頭1人ずつしか乗り込んでいない。見物客に目を向けると、左隻には御簾（みす）をめぐらせた屋根付き船に身分の高そうな女性が、右隻には煙草盆を傍らに置いた身分の高そうな武士が屋根付き船に乗っており、何か特別な鵜飼観覧を題材にしていることを伺わせる。さらにその武士が乗る船の傍らには、茶を点てる人物が乗った屋根のない船が、見物の邪魔にならぬような位置に描かれるなど、主従関係を推測できる者もいる。ほかには、老夫婦をはさんで赤子に乳を飲ませる女性と近づいてくる鵜飼舟を指さす子供の姿から家族連



鵜飼遊楽図屏風（右隻・部分／岐阜市歴史博物館蔵）

れであろうと思われる一行や、鵜飼舟に背を向けて盛り上がる様子の一行、酒も弁当も用意していない船の上でうたた寝をする者もいる、という具合に見物客の多様性が見られる。概ね屋根付きの船には豪華な蒔絵の弁当箱や酒器などが載っており、準備万端整えて食事をしながら辺りが暗くなり鵜飼が始まるのを待つ「優雅な川遊び」の風情を描いている。その一方で、屋根なし船の多くはそうした準備をしておらず、鵜飼見物だけを目的にしているようだ。貞享5年（1688）に鵜飼見物をした松尾芭蕉は、川岸の水楼から見ており、現在とほぼ同じ観覧の仕方がすでにこの頃揃っていたわけである。

時には観覧船が多すぎて漁の邪魔になることもあったようだが、観覧船の前で漁の様子を見せることによって鵜匠たちも潤い、鵜飼を続けてこられた面もある。鵜飼が特種な漁法だけで存続してきたのではなく、観覧者の存在が鵜飼のスタイルを作り、伝統を守ってきたこと、鵜飼観覧もまた伝統的な娯楽の一つであることをこの屏風は教えてくれるのである。

—MEMO—

岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2丁目18-1（岐阜公園内）
TEL(058)265-0010 / FAX(058)265-0106

企画展　長良うかいミュージアム

会期(予定)　平成20年6月6日(金)～7月21日(月・祝)

岐阜の代表的な観光として多くの人々に知られている長良川の鵜飼が秘める、歴史と伝統の技、川にまつわる文化を紹介します。鵜飼観覧とあわせてご覧いただけば、よりお楽しみいただけることでしょう。

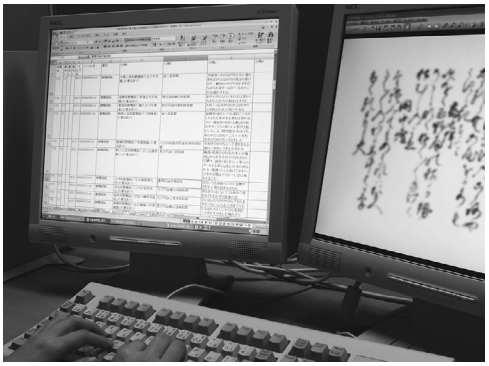
科学研究費補助金学術創成研究費

「目録学の構築と古典学の再生――天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明――」

特任研究員
内田澪子

本プロジェクトは平成十九年度に採択された学術創成研究費による研究プロジェクト（研究代表者・東京大学史料編纂所　田島公）である。複数の学問分野に亙る「古典学」研究の深化と進化を目指すことを大きな研究課題とする。本研究費の位置付けやプロジェクトの理念等詳細に関してはネット上（東京大学史料編纂所ＨＰ「編纂・研究・公開」→「共同研究」→「学術創成研究」→「プロジェクトのページ」でアクセス可）に公開されているので参観されたいが、課題実現のための確固たる研究基盤を築くことも、また等価に重要なものと位置づけられている。

その一つに、主として前近代の様々な文庫の蔵書群をデジタル化し、文庫の実態復原を試みるということがある。特に本プロジェクトでは、個人ではなかなか難しいけれど是非とも全体像の俯瞰が望まれる、東山御文庫、伏見宮家本などの禁裏関係文庫や公家文庫の実態を探り、その状況を通時的に見通し検討する視座の獲得が目指されている。また現存するモノとしての典籍は様々な機関・個人に分蔵されていても、デジタル化された情報としての典籍は仮想に集合させることができる。これに当該文庫の過去の情報である蔵書目録等を利用すると、知識体系の様を共時的に検討することも可能となる。既に、一部デジタル化されつつあるデータは、筆者も含めたスタッフが専門分野に則して研究しつつ、デジタル画像の内容目録作成や基礎的情報の共有化を目指し、その蓄積にも努めている。


デジタル画像の内容目録作成作業

筆者は日本中世文学、中でも説話や霊験譚、寺社の縁起などを研究の主たる対象としている。文学研究では本文の精緻な読解が最も重要ではあるが、物語や和歌研究において既に実践されているように、どの様な場に伝えられ読まれてきたのか――即ち享受史を検討することも重要である。説話等の作品研究においても、対象とする作品や写本がどのような資料群の中に伝来してきたのか、他のどのような資料群と交渉を持ってきたのか、といった視点からの検討は更に深められてよい。禁裏や公家が牽引してきた伝統的な知識体系の中に伝来した作品であっても、外れている作品であっても、中にあること・外れていることの意味そのものを問い返すことで、作品を有機的に文学史上に位置づけることが可能になると考えている。

また寺社の縁起類に限って言えば、モノとして典籍が現存しているものから、蔵書目録上にのみ名前を残すものまで、禁裏周辺には存外多種の縁起が伝えられていたことが見えつつある。加えて公家、場合によっては武家の蔵書群などにも調査の範囲を広げればその数は更に増す。それぞれの縁起は如何なるネットワークの中で貸借や書写が行われ、架蔵されることになったのか、その過程は縁起そのものに何らかの影響を与えるのか等、今後縁起類の所蔵分布の様を更に調査し、検討することも研究課題の一つである。

「デジタル化」「データベースの構築」といった近年の趨勢は、望むと望まざるとに関わらず、人文学研究の在り方を変化させつつあることを実感させられる機会は多い。その利点と欠点を併せて自覚した上で、これを積極的に選択・活用し研究の遂行に努めたいと思う。

禁裏・公家文庫研究　第一輯

田島 公 編

序　橋本義彦

｜第一部｜

明治以後における東山御文庫御物の来歴　北　啓太
近世禁裏文庫の変遷と蔵書目録　田島　公

｜第二部｜

田中教忠旧蔵『寛平二年三月記』について　鹿内浩胤
『小野宮年中行事裏書』(田中教忠旧蔵『寛平二年三月記』)影印・翻刻　鹿内浩胤
広橋家旧蔵本『叙除拾要』について　西本昌弘
尊経閣文庫本『無題号記録』と東山御文庫本『叙位記 中外記』所引「院御書」　田島　公
『秋玉秘抄』と『除目秘抄』　田島　公

｜第三部｜

東山御文庫本『御産記寛弘六年十一月』(小右記)の紹介　石田実洋
『中右記部類』目録　吉田早苗
伏見宮本『御産部類記』について　詫間直樹
『実躬卿記』写本の形成と公家文庫　菊地大樹
菊亭家本の賀茂(鴨)御幸記二種　藤原重雄
洞院公数の出家　末柄　豊

｜第四部｜

東山御文庫本マイクロフィルム内容目録(稿)(1)　小倉慈司

▶B5判・402頁／定価10,290円　ISBN4-7842-1143-8

禁裏・公家文庫研究　第二輯

田島 公 編

序　米田雄介

｜第一部｜

東山御文庫架蔵「地下文書」の性格　飯倉晴武
書陵部所蔵宋版一切経の来歴について、その印造から現代まで　中村一紀
中世天皇家の文庫・宝蔵の変遷　田島　公
高松宮家旧蔵『伏見殿文庫記録目録』について　詫間直樹

｜第二部｜

渤海南京南海府の位置推定についての考察　趙　炳舜
九条本『官奏抄』の基礎的考察　石田実洋
東山御文庫本『除目部類記』所引『法性寺殿御記』『中右記』逸文　尾上陽介
『中右記部類』年次目録　吉田早苗編
高松宮家旧蔵『定能卿記』(安元御賀記)　藤原重雄・三島暁子
宮内庁書陵部蔵『叙位儀次第』(管見記第五軸)紙背文書について　小川剛生

｜第三部｜

東山御文庫本マイクロフィルム内容目録(稿)(2)　小倉慈司

▶B5判・400頁／定価10,290円　ISBN4-7842-1293-0

御堂関白記全註釈　第2期 全8冊

藤原道長の日記「御堂関白記」は平安時代を代表する一級史料。本全註釈は、永年にわたる講読会（東京・京都）の成果を集成したもので、原文・読み下しと詳細な註により構成。

長和4年　290頁／定価6,300円　ISBN4-7842-1158-6
寛弘3年　218頁／定価5,775円　ISBN4-7842-1214-0
寛弘7年　220頁／定価5,775円　ISBN4-7842-1260-4
寛弘4年　220頁／定価5,775円　ISBN4-7842-1302-3
寛弘8年　258頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1350-4
寛弘5年　180頁／定価5,250円　ISBN978-4-7842-1374-0
［以後続刊］第7回 長和5年／第8回 長徳4年～長保2年

『親信卿記』の研究

佐藤宗諄先生退官記念論文集刊行会編

四方拝・供立春水など80項目余の記事を抽出・分離し、他本との校訂や内容の研究にとりくんだ一書。

▶A5判・600頁／定価10,290円　ISBN4-7842-1252-3

兵範記人名索引

兵範記輪読会編

男子・女子の部の２部構成。人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込む。

▶A5判・484頁／定価9,450円
ISBN978-4-7842-1358-0

宮内庁書陵部編　花園院宸記　全35巻［既刊24巻］

日記の最高位
全35巻を完全複製

※延慶三年花園天皇十四歳の時より、元弘二年、三十六歳の時に至る二十三年間の天皇自筆日記の原本

※傑出した能筆家であり、その巧まざる達筆をもって、自在に書記された宸記は他に類を見ない書道史上の優品

※宮内庁書陵部の研究者による釈文及び書誌的事項を中心とした解説を別冊として各巻に付した

※三色ないし四色のコロタイプ印刷で、原本に近い色調を再現、裏書についても裏打ちを考慮して再現に努めた

▶既刊24巻・揃定価5,770,260円
以後平成26年まで毎年１回配本
平均予価370,000円

※既刊分については分割払いも承りますのでご相談下さい

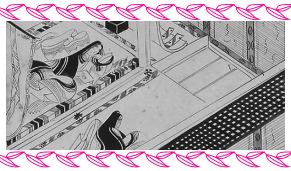
院政期以降肥大化した源氏物語注釈の世界に大きな転換を果たしたのが、江戸初期の北村季吟『湖月抄』である。本文すべてを持つとともに、旧来の注記を整理簡略化し、読者の便宜をはかる。この書がその後長く生き続け、近代になっても標準的なテキストを持った注釈書として利用されることになる。さらに江戸期の特色としては、出版という新しい書物の流通が出現したことで、とりわけ挿絵が作品の理解と大衆化に大きな役割を果たしていく。

二二六枚の挿絵を持ち、五十四帖のすべての本文を持つ『絵入源氏物語』、これはその後の方向に大きな影響を与えていく。簡単な注釈が別冊に付されるとはいえ、全文を読むのは困難なだけに、前代から存したダイジェスト版が挿絵入りで再生産されるとともに、同種の方法による出版物があいつぐ。『十二源氏袖鏡』『源氏絵宝枕』『源氏鬢鏡』といったごく簡略なあらすじと一巻一図の形式、野々口（雛屋）立圃の『十帖源氏』『おさな源氏』などになると、より平易で詳細なダイジェストと挿絵、新しい方法によって『源氏物語』の読者は拡大していく。

「わづかに難波津をつづけん人のためにと思ひおこせるのみにて、なにの深き心あるにはあらずなむ」（『おさな源氏』）などと、幼い子供にも理解できるようにと執筆の意図を表明し、「そは幼き人のためのみにもあらず、源氏物語知らざらむ人の、この源氏一首を見ば、なべての巻をも見むと思ひおこすべき、ひとつのはしだてとなるべきわざにこそあらめ」（『源氏百人一首』）などと、入門書として著作したとも述べる。

源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第三回〉

〈源氏文化〉の諸相



伊井春樹
（国文学研究資料館館長）

そのようにしてまで、『源氏物語』を読まそうと慫慂し、作品の理解を通じて道徳的な教えをしていこうとする時代的な背景が存するものと思われる。本居宣長が「もののあはれ」を論じたとはいえ、江戸時代には必ずしもその主張が普遍化した論理とはなりえなかった。

江戸時代は、〈源氏文化〉が大量に、また豊富に生み出された時代でもあり、作品そのものを読むだけではなく、各種の梗概書によって『源氏物語』の理解を容易にしようとし、また和歌、連歌、俳諧を含む文学作品への影響だけではなく、演劇（能・歌舞伎）、遊芸（双六、かるた、投扇興、香道、花道）にまで広がりを見せる。

このような現象は、現代の〈源氏物語ブーム〉にも通じることで、概説書、図版入り入門書、さらには現代語訳等の出版物だけではなく、宝塚歌劇から演劇、オペラ、映画、マンガ、アニメ、現代詩、短歌、朗読、さらには観光産業にまで寄与するという社会現象までも起こしており、その広がりは今後も拡大していくことであろう。その根源は、やはり『源氏物語』が多様な価値を保有し、どのようにアクセスしても通用するところに、その存在の大きさと魅力があるというほかはない。

（つづく）

伊井春樹（いい　はるき）
国文学研究資料館館長．大阪大学名誉教授．著書『源氏物語注釈史の研究』『成尋阿闍梨母集全釈、私家集全釈叢書17』『源氏物語注釈書・享受史事典』『物語の展開と和歌資料』『ゴードン・スミスが見た明治の日本』など．

千年前の源氏物語の世界を歩くための探訪ガイド

京都源氏物語地図

社団法人紫式部顕彰会 編纂／角田文衛 監修／加納重文 編集責任　大好評

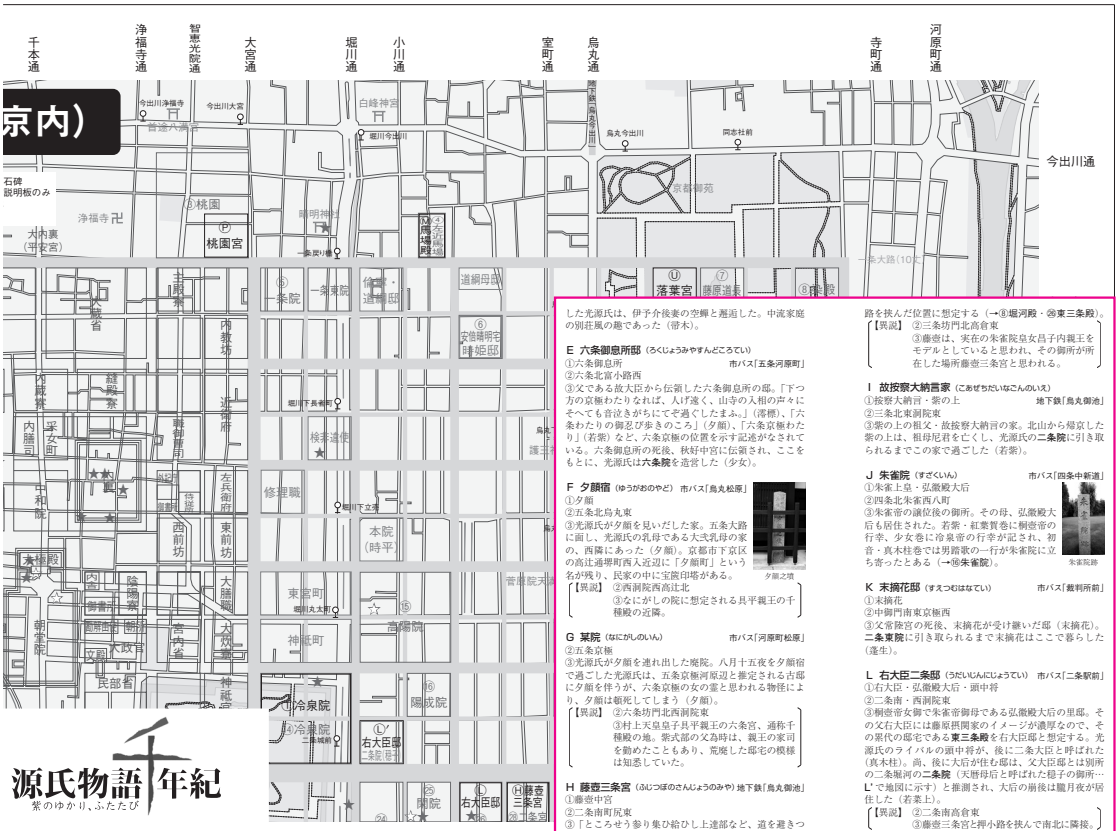
現在の地図に平安京復元条坊を重ね、源氏物語ゆかりの邸宅などを配置。
散策に最適なハンディタイプの地図１枚に、案内をかねた小冊子つき。

定価840円（送料：3冊まで150円、4冊以上は通常の小社規定によります）

ISBN978-4-7842-1372-6

▶地図：A2判（594㎜×420㎜）1枚（表・平安京内地図　裏・京外地図）　解説・アクセスガイド冊子：105㎜×297㎜／32頁

◉地図見本（50%縮小）◉



した光源氏は、伊予介後妻の空蟬と邂逅した。中流家庭の別荘風の趣であった（帚木）。

E 六条御息所邸（ろくじょうみやすんどころてい）　市バス「五条河原町」
①六条御息所
②六条北富小路西
③父である故大臣から伝領した六条御息所の邸。「下つ方の京極わたりなれば、人げ遠く、山寺の入相の声々にそへても音泣きがちにてぞ過ぐしたまふ。」（澪標）、「六条わたりの御忍び歩きのころ」（夕顔）、「六条京極わたり」（若紫）など、六条京極の位置を示す記述がなされている。六条御息所の死後、秋好中宮に伝領され、ここをもとに、光源氏は**六条院**を造営した（少女）。

F 夕顔宿（ゆうがおのやど）　市バス「烏丸松原」
①夕顔
②五条北烏丸東
③光源氏が夕顔を見いだした家。五条大路に面し、光源氏の乳母である大弐乳母の家の、西隣にあった（夕顔）。京都市下京区の高辻通堀町西入近辺に「夕顔町」という名が残り、民家の中に宝篋印塔がある。

夕顔之墳

【異説】②西洞院西高辻北
③なにがしの院に想定される具平親王の千種殿の近隣。

G 某院（なにがしのいん）　市バス「河原町松原」
②五条京極
③光源氏が夕顔を連れ出した廃院。八月十五夜を夕顔宿で過ごした光源氏は、五条京極河原辺と推定される古邸に夕顔を伴うが、六条京極の女の霊と思われる物怪により、夕顔は頓死してしまう（夕顔）。

【異説】②六条坊門北西洞院東
③村上天皇皇子具平親王の六条宮、通称千種殿の地。紫式部の父為時は、親王の家司を勤めたこともあり、荒廃した邸宅の模様は知悉していた。

H 藤壺三条宮（ふじつぼのさんじょうのみや）地下鉄「烏丸御池」
①藤壺中宮
②二条南町尻東
③「ところせう参り集ひ給ひし上達部など、道を避きつつひきすぎて、向かひの大い殿に集ひ給ふ」（賢木）とあるように、**右大臣邸**の向かいに所在。藤原氏伝来の邸宅・**堀河殿**とすると、幅50ℳ以上の大路が上記表現に合わず、ふさわしくない。摂関家伝来の**東三条殿**と町尻小路を挟んだ位置に想定する（→⑧**堀河殿**・㉙**東三条殿**）。

【異説】②三条坊門北高倉東
③藤壺は、実在の朱雀院皇女昌子内親王をモデルとしていると思われ、その御所が所在した場所藤壺三条宮と思われる。

I 故按察大納言家（こあぜちだいなごんのいえ）　地下鉄「烏丸御池」
①按察大納言・紫の上
②三条北東洞院東
③紫の上の祖父・故按察大納言の家。北山から帰京した紫の上は、祖母尼君を亡くし、光源氏の**二条院**に引き取られるまでこの家で過ごした（若紫）。

J 朱雀院（すざくいん）　市バス「四条中新道」
①朱雀上皇・弘徽殿大后
②四条北朱雀西八町
③朱雀帝の譲位後の御所。その母、弘徽殿大后も居住された。若紫・紅葉賀巻に桐壺帝の行幸、少女巻に冷泉帝の行幸が記され、初音・真木柱巻では男踏歌の一行が朱雀院に立ち寄ったとある（→㊱**朱雀院**）。

朱雀院跡

K 末摘花邸（すえつむはなてい）　市バス「裁判所前」
①末摘花
②中御門南東京極西
③父常陸宮の死後、末摘花が受け継いだ邸（末摘花）。**二条東院**に引き取られるまで末摘花はここで暮らした（蓬生）。

L 右大臣二条邸（うだいじんにじょうていい）　市バス「二条駅前」
①右大臣・弘徽殿大后・頭中将
②二条南・西洞院東
③桐壺帝女御で朱雀帝御母である弘徽殿大后の里邸。その父右大臣には藤原摂関家のイメージが濃厚なので、その紫代の邸宅である**東三条殿**を右大臣邸と想定する。光源氏のライバルの頭中将が、後に二条大臣と呼ばれた（真木柱）。尚、後に大臣が住む邸は、父大臣邸とは別所の二条堀河の**二条院**（天暦母后と呼ばれた穏子の御所…L′で地図に示す）と推測され、大后の崩後は朧月夜が居住した（若菜上）。

【異説】②二条南高倉東
③藤壺三条宮と押小路を挟んで南北に隣接。

M 馬場殿（ばばのおとど）　市バス「一条戻り橋」
②一条北西洞院西
③左右近衛府の殿屋。一条大路は、賀茂祭（葵祭）見物

解説・アクセスガイド冊子組見本（40%縮小）

INFOMATION

源氏物語千年紀展

～恋、千年の時空（とき）をこえて～

4月26日（土）－6月8日（日）

国宝・重要文化財・重要美術品約40点をふくむ
計約160点が展示されます

THE MUSEUM OF KYOTO
京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888　FAX.075-222-0889
URL http://www.bunpaku.or.jp

●私のノートから●

願文が語ること

工藤美和子

私はまず僧侶になってみることにした。それから少しずつ仏教について考えはじめた。「出家されたのはなぜですか」とよく質問される。理由は一つである。仏教の世界を外から眺めながら論じている人が多いが、それで本当に仏教が分かるのかとふと疑問に思い、自分は仏教の中に入って考えてみたいと思ったからである。そこで出会ったのが、平安期の願文であった。もちろん釈尊や高僧の教えについて少しは読んだつもりだったが、それ以上に願文の持つ力は私を魅了した。

願文とは、仏教法会の主催者である願主が、仏に対して何を行い、何を実現したいのかを誓う文章のことである。驚いたことに彼らは、今日我々が平安仏教に対して抱いているような、現世利益をかなえるということには目もくれず、自己と他者を悟りへと導くために何をすべきなのかしか考えていないのである。まさしく願文は、信仰告白を述べた貴重な史料といえるのである。その作成は、七世紀頃から確認されるが、平安期になるとその数も増していく。例えば『菅家文草』『本朝文粋』『江都督納言願文集』『本朝続文粋』などの詩文集に多くの願文が収載されている。その作成は、主に願主の依頼を受けた文人貴族が行い、経典や漢籍の語句を引用した流麗な文体で綴られる。その一方で、仏教に対する考え方がストレートに記述されていることも見逃してはならない。

それら願文の中でも特に菅原道真が作成した願文は興味深かった。道真の願文は、例えば母子関係に言及した願文には、子が母親の恩に報いたいと思うのならば、他者を救済したいという誓願を立て、寺を建立し、経典を書写し、仏の教えを世間に広めることしかないと述べられる。願文の最後で母は、迷える衆生を人間界にわが子として誕生させ、仏道を教え他の衆生を救い、やがて悟りへといたることができるように導いていく菩薩であったという記述でおわる。また天皇に関する願文では、天皇自らが煩悩をもつ一衆生に過ぎないと告白するものもある。また別の願文の中で天皇は、衆生救済のために現実世界に出現した仏であったとも述べる。道真の願文には、悟りとは何か、利他行とは何かといった仏教の基本的教義が、まるで釈尊が弟子たちを諭すかのような言葉で綴られていく。

願文を読んでいく中で、私が最も大きな衝撃を受けたのは、人の死を悼むはずの追善願文の中で、死を悲しんだりすること自体が、己の煩悩が生み出した幻想だと語っていることであった。現代社会はむしろ反対で、自分の意思で未来を切り拓ける人間であることを誇りに思えと教える。だが願文には、人間は所詮六道の迷妄の世界に生まれているに過ぎず、そのことを恥じねばならないと語っている。現代の価値観では、よりよい人間性を追求することが求められる。しかし実際は、単に他人よりいい生活の追求や、他者を蔑むことによって自己の価値を維持することへと転化している。それこそが、願主をはじめとする過去の人々が恥じた、人間が求める栄誉や幸福の追求なのかもしれない。

このたび『平安期の願文と仏教的世界観』を上梓することになったが、そのなかで過去に生きた人々が、その地位に関わりなく、一人の仏道修行者となっていかに生きていくべきなのかを探し求めていた軌跡を中心に考察してみた。小著によってその願いを少しでも伝えることができたならば幸いである。なぜなら彼らの願いは、我々をも含むすべての衆生が悟りへと到り着くまでは決して消えることがないからだ。

くどう・みわこ
1972年福岡県生まれ．佛教大学大学院文学研究科博士後期課程修了．博士（文学）．現在，佛教大学総合研究所嘱託研究員．浄土宗僧侶．法名は和興（わきょう）

（15頁に図書案内）

仏教大学研究叢書2

平安期の願文（がんもん）と仏教的世界観

工藤美和子著　〔最新刊〕

願文とは、法会の主催者である願主が、仏に願意を述べる文章である。従来は、定型句をつかった儀礼的な言葉に過ぎないとみなされ、その内容については分析されてこなかった。しかし、本書では、願文自体が何を語ろうとしているのか分析することで、天皇から中下級貴族・女性・僧侶にいたる人々の仏教理解や具体的信仰のあり方、所属する社会集団内部でのそれぞれの構成員が果たした公共的な役割、寺院や僧侶と世俗社会との関わり方、具体的な宗教的実践のあり方を明らかにする。

第Ⅰ部　9世紀の願文にみる仏教的世界観

慙愧する天皇―9世紀における天皇の仏教的役割／摩頂する母―菅原道真の願文にみる母と子

第Ⅱ部　10～11世紀の仏教的世界観(1)―願文を中心に

忠を以て君に事へ、信を以て仏に帰す／現世の栄華の為でなく／安養の院と親史の宮と

第Ⅲ部　10～11世紀の仏教的世界観(2)―「空也誄」から『三宝絵』へ

王事と仏那と白楽天と／「空也誄」と『三宝絵』の構造と差異

第Ⅳ部　院政期の願文にみる仏教的世界観

未だ欲を離れざれば／「禅定仙院」白河論／竜女・釈女の智慧を得む

▶A5判・368頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1393-1

善導大師と法然上人　念仏に生きる

水谷幸正著　仏教大学鷹陵文化叢書（別巻）〔最新刊〕

平成20年4月、傘寿をむかえる著者が浄土宗僧侶として、戦後の混乱期から21世紀の今日まで、浄土宗の宗祖法然上人、さらにその師と仰がれた善導大師から脈々と受け継がれてきた念仏の教え、懺悔の思想とは何かを現代に問いかける。

【内容目次】善導大師と法然上人（善導大師の人と思想／善導大師の本意／法然上人など）／仏教と生活（念仏の心がまえ／南無仏と縁起観／六道輪廻と地獄の思想など）

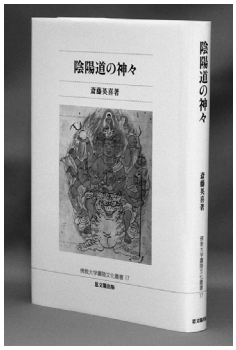
みずたに・こうしょう…1928年三重県生．現在，学校法人浄土宗教育資団理事長，学校法人東海学園理事長，佛教大学名誉教授．文学博士．

▶46判・300頁／定価2,520円　ISBN978-4-7842-1401-3

陰陽道の神々

〔好評2刷〕

斎藤英喜著　仏教大学鷹陵文化叢書⑰



疫鬼や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を、最新の研究成果にもとづき、もうひとつの「日本」の神々の世界を探究していく。掲載写真・図版多数。

▶46判・292頁／定価2,415円　ISBN978-4-7842-1366-5

仏教思想と浄土教

水谷幸正著　〔好評2刷〕

学・行・信の課題に応えて研鑽を積んだ著者永年の業績を集成

【内容目次】仏教思想研究／如来蔵思想と浄土教研究／浄土教思想研究／導空二祖の浄土教研究

▶A5判・728頁／定価12,600円　ISBN4-7842-0989-1

権者の化現　天神・空也・法然

今堀太逸著　仏教大学鷹陵文化叢書⑮

日本人の信仰としての日本仏教の特質を検討するのに「災害と仏教」という視点で迫った「日本国の災害と道真の霊」をはじめ、「六波羅蜜寺の信仰と空也」「浄土教の布教と法然」の3部構成で、仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。

▶46判・312頁／定価2,415円　ISBN4-7842-1321-X

法然伝と浄土宗史の研究

中井真孝著　思文閣史学叢書

都市的な顔と田舎的な体を具有する浄土宗の性格が形成された過程を解明する待望の論集

【内容目次】法然上人伝の研究／中世浄土宗寺院の研究／近世本末関係の研究／付篇（経疏目録類より見たる善導著述の流布状況　『愚管抄』についての思想史的考察　ほか）

▶A5判・430頁／定価9,240円　ISBN4-7842-0861-5

法然絵伝を読む

中井真孝著　仏教大学鷹陵文化叢書⑫

国宝『法然上人行状絵図』（知恩院蔵）から、そのトピックスとなる事項の記事を選び、読み下し・現代語訳と解説を付し、あわせて他本との比較も行う。法然伝研究の第一人者が描く“絵伝に読む法然像”。口絵カラー4頁・挿図45点。

▶46判・234頁／定価1,890円　ISBN4-7842-1235-3

王権と都市　今谷明編　最新刊

国際日本文化研究センターでの研究の集大成として、編者が壮大な展望のもと組織した共同研究の成果。王権と都市の関連を検討する研究は、イブン＝ハルドゥーンの問題提起以来、一部の例外を除けば理論的発展を欠き、地域的に偏りもあった。本書は日本、アジア・イスラーム、ヨーロッパの3領域から11篇の論文を収め、各時代・各地域での都市史のあり方を相互に比較検討し、「都市とは何か」という命題の解明に挑む。

［内容］

王権都市論の系譜
（今谷明・国際日本文化研究センター教授）

Ⅰ　日本

「山背遷都」の背景
（仁藤敦史・国立歴史民俗博物館准教授）
「庭」に関する一考察
（金銀貞・東北大学大学院文学研究科博士後期課程）
信長の本能寺“御殿”について　（今谷明）
近代の都市類型　（加藤祐三・横浜市立大学前学長）

Ⅱ　アジア・イスラーム

インダス文明の都市と王権
（宇野隆夫・国際日本文化研究センター教授）
元大都の游皇城
（乙坂智子・横浜市立大学国際総合科学部准教授）
マムルーク朝期メディナにおける
王権・宦官・ムジャーウィル
（長谷部史彦・慶應義塾大学文学部准教授）

Ⅲ　ヨーロッパ

一三世紀フランスにおける誓約と文書
（図師宣忠・京都造形芸術大学他非常勤講師）
中世王権の「首都」形成
（藤井真生・三重大学他非常勤講師）
中世城壁から稜堡式城郭へ
（白幡俊輔・京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）

いまたに・あきら…1942年生まれ．4月より都留文科大学学長

▶A5判・372頁／定価7,140円　ISBN978-4-7842-1396-2

王権と神祇　今谷明編

実証的研究の蓄積が少ない天皇制や大嘗祭、また権門体制論・顕密体制論によって規制されがちな中世神祇史について、実態面の研究を積み重ね、さらに中世日本紀や神道書の考証も重ね合わせることにより、王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。国際日本文化研究センターにおいて各分野の研究者によって行われた共同研究の成果。

第１部　古代王権と神祇
岡田荘司／ガデレワ・エミリア／嵯峨井建
第２部　怪異と卜占
西岡芳文／西山克／今谷明
第３部　神道説の諸様相
田中貴子／阿部泰郎／伊藤聡／大谷節子
第４部　神道と天皇観
高橋美由紀／白山芳太郎／中村生雄

▶A5判・348頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1110-1

孝子伝の研究　好評２刷

黒田彰著　［佛教大学鷹陵文化叢書５］

孝思想に発した文学としての孝子伝は、中国の哲学や社会制度とも深く関わり、またわが国における説話文学史に大きな影響を与えてきた。本書は、孝子伝と二十四孝の伝存資料の検討および図像資料の紹介などの実証的研究を盛り込んだ成果。

▶46判・486頁／定価3,150円　ISBN4-7842-1085-7

日本古代の伝承と歴史　最新刊

渡里恒信著

大化前代における王権と氏族の諸様相を『古事記』と『日本書紀』などの伝承史料から解明し、また、平安初期の特徴的な君臣関係をテーマとして取り扱う。

わたり・つねのぶ…1946年広島県生．博士（文学・立命館大学）

▶A5判・372頁／定価6,300円　ISBN978-4-7842-1403-7

蓬萊山と扶桑樹　日本文化の古層の探究

岡本健一著　最新刊

不老長生の仙境「蓬萊山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボルが、日本の古代文化におよぼした影響を、歴史考古学的に明かす。

第Ⅰ部　蓬萊山と扶桑樹の再発見

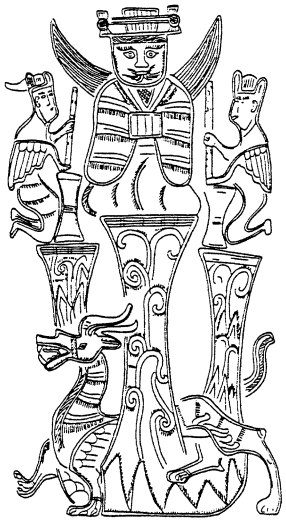
序章　日本古代史上の「スフィンクスの謎」／第１章　蓬萊山のかたち／第２章　蓬萊憧憬の展開／第３章　扶桑樹のすがた――冠と壁画の図像学――／第４章　扶桑憧憬の諸相／結章「文物の儀、備はる」――「国のかたち」の形成――

第Ⅱ部 不老長寿の楽園を求めて

第５章　卑弥呼の最期と昇仙／第６章　雄略時代の神仙信仰／第７章　高松塚の主石上麻呂／第８章　蓬萊を尋ねた人びと

おかもと・けんいち…1937年京都市生．毎日新聞社特別編集委員を経て，京都学園大学教授．〔主著〕『「日本」誕生のなぞ』（大日本図書）『古代の光――歴史万華鏡』（毎日新聞社）など

▶A5判・388頁／定価5,775円　ISBN978-4-7842-1400-6



沂南画象石墓に描かれた壺型の蓬萊山

鷲尾遍隆監修／綾村 宏編

石山寺の信仰と歴史

琵琶湖畔瀬田川のほとりに荘重な伽藍を構える石山寺は、奈良時代、聖武天皇の勅願により創建され、古くから観音信仰の聖地であった。西国三十三所第十三番札所として知られ、また、紫式部が源氏物語の着想を得たという伝説が残るなど、多くの人たちによってその信仰と文化が育み守られてきた名刹である。石山寺の信仰・歴史・美術・文学・経典を、第一線の研究者が、豊富なカラー図版とともに解説。 オールカラー・図版150点

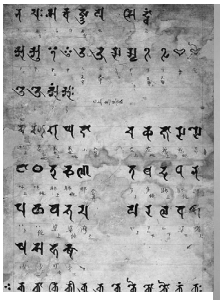
最新刊

❖序　鷲尾遍隆（石山寺第52世座主）

❖観音信仰と巡礼の寺（頼富本宏　種智院大学学長）
観音信仰の寺／石山寺建立の縁起と本尊／平安密教と観音信仰および観音霊場の成立／三十三所観音巡礼の形成／石山寺を継ぐ人びと／法要と行事の伝承

❖創建とあゆみ（綾村　宏　京都女子大学教授）
石山寺の創建／平安時代の石山寺／消失・戦火と文化財の継承／観音巡礼／歴史を語る寺誌資料と古文書／明治以降の石山寺

❖仏像と絵画の荘厳（宮本忠雄　琵琶湖文化館館長）
本堂の諸尊／豊浄殿などの諸尊／多宝塔の本尊と柱絵／『石山寺縁起絵巻』と仏画


悉曇十二章

木造如意輪観音半跏像

多宝塔

紫式部観月図（土佐光起筆）

❖伽藍のすがた（山岸常人　京都大学教授）
境内の全体像／中世の建物／慶長復興期の建物／近世の院家と小堂宇

❖紫式部と『源氏物語』
（奥田　勲　聖心女子大学名誉教授）
源氏物語起筆伝説／源氏の間／石山寺文学の種々相／『源氏物語』と和歌／源氏絵の世界

❖聖教の伝承（沼本克明 安田女子大学教授）
薫聖教と淳祐／一切経とそれを護持した僧たち／校倉聖教と深密蔵聖教／聖教の紙背に残るもの／いまも続く史料調査

▶A5判・180頁／定価1,890円

ISBN978-4-7842-1387-0

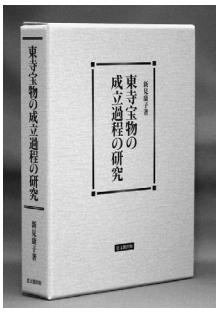
東寺宝物の成立過程の研究

最新刊

新見康子著

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに、東寺に残る文化財の伝来過程を具体的に体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に、本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしなおす。

カラー口絵4頁・本文挿図80点



【内容】

第1部　東寺の宝物と『東宝記』
第1章　東寺の伽藍と『東宝記』
第2章　東寺宝蔵の宝物と『東宝記』
第3章　東寺西院御影堂の宝物と『東宝記』
第4章　東寺の安置聖教と『東宝記』
第2部　東寺宝蔵の宝物の伝来と現状
第1章　東寺宝蔵の宝物の成立過程
第2章　東寺宝蔵の宝物の管理と保存
第3部　東寺西院御影堂の宝物の伝来と現状
第1章　東寺西院御影堂の宝物の成立過程
第2章　東寺所蔵『弘法大師請来目録』の伝領過程

にいみ・やすこ・・・立命館大学文学部史学科日本史学専攻卒業．東寺宝物館学芸員．博士（文学）．

▶A5判・634頁／定価12,600円

ISBN978-4-7842-1368-9

武田庸二郎・江口恒明・鎌田純子編

近世御用絵師の史的研究 〔最新刊〕

―幕藩制社会における絵師の身分と序列―

これまでの研究において、「御用絵師」という用語は概念規定も曖昧なまま不用意に使用されてきた。本書においては、御用絵師を、禁裏御用、幕府御用、諸藩御用などの公的事業に携わるすべての絵師と規定し、それら画業を生業としていた人々が、全国的官位官職制度の中にどのように組み込まれていたのか、時の為政者は、職能集団たる絵師の組織をどのように編成、掌握していたのか、絵師たちは、自家の繁栄のために、どのような身の処し方をしていたかを論じる。論考6篇と、禁裏御用絵師の身分、処遇や選定の経緯を探る上で重要な史料の翻刻3篇を収録。

論文篇

本論集の視角（武田庸二郎）
江戸幕府御絵師の身分と格式（尾本師子）
江戸後期における幕府御絵師の名順と身分編成（江口恒明）
寛政度禁裏御所造営における絵師の選定について（武田庸二郎）
永宣旨による絵師の僧位再考（山本ゆかり）
勅許による絵師の叙任について（鎌田純子）
紀伊藩御絵師 笹川遊泉の由緒について（福田道宏）

史料篇

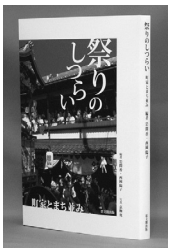
禁中御用絵師任用願（『身元礼』）
造内裏御指図御用日記（抄）
禁裏御所御用日記（抄）

▶A5判・458頁／定価7,875円　ISBN978-4-7842-1392-4

祭りのしつらい

町家とまち並み

岩間香・西岡陽子編／京極寛写真



祇園祭・天神祭をはじめ、城端（富山県）や大津・倉敷など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。歴史・絵画史料にみる祭りの変遷と、本書紹介の祭礼をカラー60頁に収録。

【内容】

カラー図版

えがく　祭りのかたち／祭りのまちなみ／祇園祭／祭りの諸相
まつる　現代の祇園祭／神の宿／祭りを迎える家／まつられるもの
いろどる　灯火奉納／透過光の魅惑／街路を飾る
つくる　大阪のつくりもの／祝祭／小正月と夏祭り／一式飾り／つくりもののアイデア／見せ物とつくりもの
つたえる　近代化と新しい飾り／都市の伝統と創造／祭りとまちづくり／海辺のまち／祭りの人

本文

座敷を飾る―神像・家宝・造り物―（西岡陽子）
絵画に見る祭りのしつらい―屏風と桟敷―（岩間　香）
屏風祭の戦後60年―祇園祭の宵山飾り―（谷　直樹）
祭りのしつらいと町家・町並み―大津・日野・奈良井―（増井正哉）
祭りの住文化とまちづくり―城端・倉敷・村上―（碓田智子）
都市祭礼の最前線―大阪天神祭―（中嶋節子）
造り物の諸相―大坂を中心に―（西岡陽子）
町家とまち並みを飾る祭りの紹介（約100件）

▶B5判・200頁／定価2,310円　ISBN978-4-7842-1360-3

黄金のとき　桃山絵画

京都国立博物館編

信長・秀吉と狩野永徳に象徴される桃山時代の絵画を狩野派とそれをめぐる作家たちの作品を中心に構成。大画面　―襖・屏風・大絵馬・杉戸絵―　を主として基本作品全100点を全8章に分けてオールカラーで収録 各章ごとにテーマ解説を掲げ、適宜部分拡大図を収めた。

▶B4判・250頁／定価42,000円　ISBN4-7842-1044-X

隔蓂記　［全7巻（本編6巻・総索引1巻）］

赤松俊秀校訂

近世文化揺籃期の社会相を知る最重要史料、金閣鹿苑寺住持鳳林承章自筆の日記『隔蓂記』。総索引の完成を機に、全7巻セットとして復刊。

［全7巻セット］▶A5判・総5,130頁／定価73,500円　ISBN4-7842-1311-2
［総索引］▶A5判・760頁／定価14,700円　ISBN4-7842-1312-0

大工頭中井家建築指図集　中井家所蔵本

谷直樹編著

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家に伝わる建築指図をまとめたもの。図版517点を大判で収録。

▶B4判・250頁／定価18,900円　ISBN4-7842-1148-9

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判・454頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1377-1

酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会

成田山書道美術館・河鍋暁斎記念美術館 共編

〔内容〕

河鍋暁斎の席画　そして書画会展（河鍋楠美）
描かれた「書画会」の誕生（ロバート・キャンベル）
酒と席画は江戸の華（佐藤道信）
〔図版〕書画会の風景／暁斎の席画／紙上の競演／暁斎をめぐる人々
（カラー73点、モノクロ11点）
暁斎時代の東京書壇（高橋利郎）
『絵日記』から見る河鍋暁斎と書画会（加美山史子）
〔付録〕暁斎・書画会関連作品に登場する書家・画家名一覧／年譜／参考文献

▶A4判・160頁／定価2,100円　ISBN978-4-7842-1383-2

朝日新聞3月9日（日）読書面「視線」で紹介！
北澤憲昭氏（美術評論家）評

書評・紹介一覧　12～2月掲載分

※（評）…書評（紹）…紹介（記）…記事〔敬称略〕

関山慧玄と初期妙心寺
（評）『日本歴史』718号（西山美香）
「封建」・「郡県」再考
（評）『UP』423号（渡辺浩）
近代新潟におけるキリスト教教育
（紹）同志社タイムス 1/15
文学にみる痘瘡
（評）『国文学解釈と鑑賞』72巻12号（志村有弘）
中世日本の政治と文化
（評）『史学雑誌』116編12号（大田壮一郎）
京都文化の伝播と地域社会
（評）『日本歴史』717号（五島邦治）
鉄道日本文化史考
（評）『日本歴史』718号（原田勝正）
オランダにおける蘭学医書の形成
（評）『日本医史学雑誌』53号4号（坂井建雄）
近世社会と百姓成立
（評）『地方史研究』330号（藤塚巨人）
相国寺蔵西笑和尚文案
（評）『仏教史学研究』50巻1号（尾下成敏）
日本産業技術史事典
（紹）日刊木材新聞 12/27
日中戦争についての歴史的考察
（評）『日本史研究』545号（木坂順一郎）
八瀬童子
（評）『史学雑誌』117編1号（高田陽介）
近世寺社参詣の研究
（紹）中外日報 1/24

バーナード・リーチ再考
（紹）『学鐙』104巻4号
（紹）『サライ』2007年24号
陰陽道の神々
（紹）『歴史読本』822号
（紹）『ムー』326号
（紹）熊本日々新聞 1/20朝刊
（紹）京都新聞 1/25朝刊文化面
（紹）静岡新聞 1/28朝刊文化芸術面
（紹）『日本文学』57号
京都源氏物語地図
（紹）朝日新聞PR版 1/3あいあい京都
（紹）信濃毎日新聞 1/12夕刊
（紹）週刊京都民報 1/13
（紹）福井新聞 1/14朝刊経済面
（紹）日刊公明新聞 1/19
伊藤孝男の百人一首・競技かるた
（記）『ウェルぱぱす』1月
近代茶道の歴史社会学
（評）週刊読書人 2/22（小田部胤久）
関西モダニズム再考
（記）京都新聞 2/28朝刊文化面
酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会
（紹）読売新聞 1/10朝刊記者ノート
近世吉野林業史
（記）毎日新聞 2/15朝刊奈良版

▶てぃーたいむ余録◀

電車、自動車、郊外住宅地、病院、大学、図書館、美術館、百貨店、レジャーランド、劇場、カフェ――いまの私たちにとって当たり前のような存在であるこれらの施設やその営みが、人びとにとってとても新鮮な時代があった。そこで人は何を夢み、何を理想として、その新しい生活様式を進んで自らの人生に取りこんでいたのか。伝統と近代化の拮抗と調和、永遠のテーマとも思えるこの問題を、関西モダニズムという窓を通して考える。それにしても先生方の知の蓄積には驚くばかり。ルール破りながら、鈴木先生の200ページにおよぶ大論文は伝説になりそうです。（M.G）

▶表紙図版◀

ローマの古代都市遺跡（フォロロマーノ／今谷明氏撮影）
（『王権と都市』より）

▶営業部より――――――――専門書版元の敷居◀

昨年末『京都源氏物語地図』（定価840円・13頁参照）を発行し、そのお問い合わせに「発売したと聞いたが近所の書店に並んでいない」といった連絡を頂きました。弊社の場合、書店の陳列するか否かの判断があり、中には弊社図書の情報が届かない書店もあります。

前著の場合、弊社の中でも最安価、一般の方々にも手にしていただける部類で、好評な反面、先のようなお問い合わせを頂戴します。

そんな中、書店員さんより「専門書版元が出す一般書が1点でも好調だと、以降その版元図書全体に対する敷居が低く感じる」というコメントがありました。

これを機に弊社図書がより身近になるかもしれません。もちろん、この好調に便乗した私共の営業努力も必要ではございますが……。（江）

（表示価格は税5％込、著者・執筆者の所属・肩書は2008年3月31日現在のものです）

12月から2月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本回数	巻数	巻タイトル	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
増補・改訂 西村茂樹全集	5	5	著作5訳述書1	1380-1 C3312	07065219	095531900	08546517	18900	12
住友史料叢書	22		年々諸用留九番・友昌君公辺用筋並諸用勤務格式	1381-8 C3321	08002563	095530800	08599912	9975	12
佛教大学鷹陵文化叢書	17	17	陰陽道の神々（2刷）	1366-5 C1014	07050313	086843700	08310500	2415	2
佛教大学鷹陵文化叢書	5	5	孝子伝の研究（2刷）	1085-5 C1393	01045919	0159958	01712769	3150	2

12月から2月にかけて刊行した図書

図書名	著者名	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
近代茶道の歴史社会学	田中秀隆	1377-1 C3070	08001815	095530400	08575086	6825	12
仏教思想と浄土教（2刷）	水谷幸正	0989-7 C3014	99002274	9950149	99005639	12600	12
近代新潟におけるキリスト教教育	本井康博	1382-5 C3016	08002547	095532500	08599904	3150	12
酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会	成田山書道美術館・河鍋暁斎記念美術館編	1383-2 C1070	08003415	095615300	08650319	2100	1
伊藤孝男の百人一首・競技かるた(2刷)	伊藤孝男	1376-4 C0076	07058895	095220700	08475584	1785	1
中世蹴鞠史の研究	稲垣弘明	1390-0 C3021	08005450	095614900	08650327	5775	1
続 洪庵・適塾の研究	梅溪昇	1388-7 C3021	08006295	095722400	08662900	9975	1
明治前期の教育・教化・仏教	谷川穣	1386-3 C3021	08006278	095712300	08662892	6090	1
関西モダニズム再考	竹村民郎・鈴木貞美編	1379-5 C3036	08007934	095733500	08683575	8925	1
近世吉野林業史	谷彌兵衛	1384-9 C3021	08007938	095731000	08683617	9765	2
祭りのしつらい	岩間香・西岡陽子編	1360-3 C1039	08007959	095744400	08730426	2310	2
東寺宝物の成立過程の研究	新見康子	1368-9 C3021	08010702	095797600	08749426	12,600	2

思文閣美術館ご案内

松谷みよ子の仕事 展
被爆ピアノコンサート弾き手募集

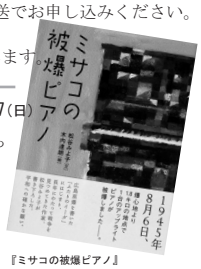
広島の原爆を書いた松谷みよ子さんの作品『ミサコの被爆ピアノ』。このピアノによるコンサートを開催します。

○コンサート日程　2008年7月27日（日）　13：30～
○弾き手対象　小・中学生、65歳以上（定員10名）
○申込方法　住所、氏名、TEL、年齢、弾きたい曲名、演奏時間（最長5分）、被爆ピアノを演奏したい理由を書いて当館まで郵送でお申し込みください。
○受付締切日　2008年6月15日（日）
※選考結果は6月下旬に皆様に通知いたします。

松谷みよ子の仕事 展 2008. 7/5（土）～8/17（日）

名著『龍の子太郎』のために筆をとってから50年にあたる今年、松谷みよ子さんの作品にあふれる魅力を探ります。

【入館料】
一般700円（600）　高大生500円（400）
小中生300円（200）
（ ）内は前売・団体料金



『ミサコの被爆ピアノ』
松谷みよ子 文　木内達郎 絵
講談社刊　2007

お問合せ
〒606-8203　京都市左京区田中関田町2-7
TEL075-751-1777　FAX075-762-6262
http://www.shibunkaku.co.jp/artm/

思文閣出版古書部

※古典籍を中心に古文書・古写経・絵巻物・古地図・錦絵などから学術書全般に至るまで、あらゆるジャンルの商品を取り扱い、目録販売を中心に営業しております。
※「思文閣古書資料目録」（年4回程度発行）をご希望の方は、古書部までお問い合わせ下さい。

現如上人北海道巡教之図
全十八枚

〒605-0089　京都市東山区古門前通大和大路東入元町357
☎(075)752-0005(代)　Fax.(075)525-7155
URL　http://www.shibunkaku.co.jp/
e-mail　kosho@shibunkaku.co.jp

ご希望の書籍を弊社にてお手にとってご覧いただけます。
お手配に時間のかかる書籍もございますので、事前にご連絡下さい。

刊行図書目録（2007年版）をご希望の方はお申しつけ下さい。

株式会社 思文閣出版
〒606-8203　京都市左京区田中関田町2-7　☎075-751-1781(代)　FAX.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/　e-mail: pub@shibunkaku.co.jp